

奈良工業高等専門学校

R6年度

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

自己点検評価（リテラシーレベル）[内部評価]

評価日時：令和7年5月8日

【資料7】令和7年5月8日 総務委員会

会議名称：総務委員会

開催場所：ものづくり実験実習棟多目的室

目的：令和6年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
1. プログラムの履修・修得状況	A	令和4年から実施し、令和7年3月現在で、リテラシーレベルの履修は100%となっている（本プログラム対象外学生を除く） 履修・修得状況は教務委員会において把握されており、年度末の進級認定会議における審議を経た後、臨時教務委員会にて認定した。 結果、85.1%の修得状況である
2. 学修成果	A	授業担当者及び教務委員会によって単位取得状況が把握されており、授業アンケートによって理解度の把握・分析ができています
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	全学生向け授業アンケートを実施し、教務委員会で結果が収集・分析されている アンケート結果を授業担当教員から学生へフィードバックしていることのエビデンスがない
4. 学生アンケート等を通じた後輩等ほかの学生への推奨度	A	入学当初の新入生オリエンテーション等を利用して入学生に周知するとともに、ホームページを活用して周知されている
5. 全学的な履修者数、履修率向上にむけた計画の達成・進捗状況	S	全学科必修科目によって教育プログラムが構成されている

奈良工業高等専門学校

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

R6年度 自己点検評価（リテラシーレベル）

[内部評価+外部意見（運営諮問会）]

評価日時：令和7年5月8日

【資料7】令和7年5月8日 総務委員会

会議名称：総務委員会

開催場所：ものづくり実験実習棟多目的室

目的：令和6年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	B	令和7年3月時点で認定された学生の最高学年が3年次で、令和7年3月時点で修了生がいないため 今後、修了生の就職先企業、進学先大学等向けアンケートを活用して活躍状況や評価を調査する予定
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	運営諮問会において報告を行い、外部評価委員から意見を伺いプログラムの点検・改善・発展等に活用できている 演習・PBL科目において上級生や専攻科生がTA等で積極的に参画できる体制が構築されることが望まれる
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	高専の特色の1つである実習形式の内容を多く取り入れた内容で授業が構成(グループワーク、クラスでの発表、Python等のプログラミング実践、物理実験等)されている
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	A	授業担当教員同士で意見交換しながら授業内容の擦り合わせや更新ができており、さらにAI研究を専門とする教員によって授業内容へのアドバイスや教材開発の協力ができるような体制になっている 授業アンケート結果を授業内容にフィードバックするとともに、教務委員会の下に設置したWGによって点検・助言等がなされている

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A：審査項目の観点通りの成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果の達成に至っておらず、改善の余地がある